2024 年 1 月

藤田浩子の　少し昔のこと〈105〉

畳の部屋

お正月という区切りの良いときに、身の回りの「少し昔のこと」を考えてみました。私が生きて来たこの８６年の間に、なんと生活の変わったこと！

まず家、私が子どものころは、すべての部屋が畳でした（畳が敷けない貧しい家は茣蓙や筵）。お金持ちの家は「洋館」と言い、畳のない部屋があるそうだ、そしてベッドで寝るそうだ、とうわさで聞いていましたが、お金持ちの友だちがいなかったので、実際に洋館の中を見る機会はありませんでした。疎開先の福島から東京に戻って東京の中学校に転校したとき、その中学に通う途中にお金持ちの家がありまして「洋館」でした。

その洋館から時折ピアノの音が聞こえてきて、いつか私もあんな家に住んでピアノを弾いてみたいなぁとあこがれていました。

それが今ではマンションでも一戸建ての家でも畳の部屋は１部屋あるかないかです。畳の部屋がなくなるのと同時に畳替えということもなくなりました。今は畳替えといっても、畳屋さんがその家の庭で仕事をするということはなく、畳をクルマで持ち帰り、張り替えて、また届けてくれます。

子どもにとっては畳屋さんの仕事をじっと見ているのが楽しみでしたが、その楽しみもなくなりました。畳屋さんは畳を新しくすると、古い畳でおままごと用の茣蓙（ござ）を作ってくれました。私はうれしくてうれしくてなんて優しい畳屋さんだろうと感謝感激だったのですが、あとで聞けば親がちゃんとお金を払っていたようです。

畳の部屋にはちゃぶ台が似合いました。円形のちゃぶ台には何人でも座れます。みんなで少しずつ詰めればいいだけです。同じように寝るときも布団さえあれば、何人でも寝られました。２枚の敷布団に３人寝ることもできて、便利でした。

リレー連載 ＜235＞

わたしの大好きな絵本

荒井（柏おもちゃ図書館”かたつむり”）

『ちょっとだけまいご』
作： クリス・ホートン
訳： 木坂 涼　　ＢＬ出版

娘が通っていた幼稚園にはお母さんたちの人形劇サークルがあり、そこに所属していた私は、絵本より先に一冊の台本でこのお話に出会いました。

演じてみると、おもしろくて心がほっこりするお話だなぁと感じ、娘も気に入った様子だったので本屋へ…。

ちびフクロウのママを一緒に探してくれるリス。ちびフクロウはジェスチャーと言葉で説明します。その姿がとてもかわいく描かれていました。その後ふたりで一生懸命に捜し回る姿や、ママがなかなか見つからず悲しくなっているちびフクロウに、リスが寄り添っている姿がとても愛おしく、ますますこの絵本が好きになりました。

また、「あれ？ここに…」という発見もあり、読み返す度にわくわくする絵本です。